

2021年5月11日

イベント学会 西日本地域本部 研究会発足趣意書

“関西万博”を見据えた、「関西歴史文化首都構想」の推進をはかる研究会

理事 西日本地域本部長 宮本倫明

理事 西日本地域副本部長 信時正人

西日本地域副本部長 川井徳子

研究の目的

2019年中国で発生した新型の感染症 COVID-19 は1年半あまり経過した現在も、全世界に拡がり猛威を振るっている。この感染症対策の結果、甚大な影響を受けた産業が宿泊・観光・イベント産業であり、今なお苦しい状況が続いている。

西日本地域本部では、来るべき観光・イベント産業の復活を見据え、2025年の大阪・関西万博開催のタイミングに向けて、自治体の枠組みを越えてこれを“関西万博”として捉え、観光・イベント産業の復活を戦略的に取り組めるよう学会として各方面に提言を行えるよう研究成果を出すことを目的とする。

それにあたっては文化庁の移転、大阪の百舌鳥古市古墳の世界遺産登録を契機に、関西の歴史と文化に光を当て「関西歴史文化首都」という方向性を打ち建てる。

関西は日本の歴史文化の「みなもと」であり、かつては政の首都であった奈良・難波・京都を有し、「宮都・城郭」「古墳・遺跡」「神社・仏閣」など有形文化遺産に加え、「懐石・和食」の源流や能楽、歌舞伎、相撲などの「芸能・神事」発祥の地としての無形の文化遺産の宝庫でもある。これらをわかりやすく明快なテーマでくくり、観光やイベントに落とし込むことで、これまでにない体験価値を創造し、広く海外&国内に発信することが本事業のゴールである。

そのことを通じてハイクオリティの芸術作品や、新たな文化創造に結びつく潮流を生む「日本版ルネサンス」を目指すことも重要であろう。また、舞台芸術や映画・ゲーム、食イベントなどの制作をとおして、企画・プロデュース人材の育成をはかることも重要な視点である。

イベント学会の研究対象として「新しい学び」がある。具体的には学会の祖である堺屋太一氏が「知価革命」と呼び、海外の研究者が「エクスペリエンス・エコノミー」と名付けた「体験」研究の深化である。本研究を通じて、イベントが産出する価値の内容を学術的成果としたい。

研究の意義と目標

本研究の意義を深め、目標を高くするために次の3点を重視する。

まず、第一に『有形の価値と無形の価値の融合力』を引き出すことである。関西一円に存在する有形の世界遺産や文化財の紹介だけでなく、無形文化遺産の魅力にも光を当てることで『有形の価値と無形の価値の融合力』を世界にアピールしていく。UNESCOも認めた日本の歴史文化の「価値の真正性」を日本人自身が理解し、持続可能な開発を可能にする社会に向けたビジョンを世界にアピールすることで、SDGs万博といわれる関西万博に大きな意義を与えることが出来ると思われる。

第二に、『ソーシャル・プロデュース事業』のあり方を体現化することである。日本の歴史からは行基の水田開発や東大寺の再建のように、社会的包摂、ソーシャル・プロデュース事業を学ぶことが可能である。産官学市民協働の新しい活力創造の精神と活動実践の手法を歴史から学び未来へ繋いでいく機会とする。これらに関西万博の運営手法に展開することを通じて、各国政府や国際機関、企業だけでなく、社会教育機関やNGO/NPOや基金団体等との連携をはかる万博へと展開をはかれるようになることが重要である。

第三に、『広域観光の存在意義と観光プロモーションにおける体験型イベント・体験価値の創造について検討』することである。現在、観光プロモーションは自治体ごとに事業も予算も執行されており、All関西の魅力をプロモーションする力は弱い。現在の地方自治体主体から発信される個別最適の情報編集ではなく、日本・関西全体の相互性と歴史性に基づいた、来訪者の求めるテーマに沿った情報編集を可能にする広域観光推進主体の在り方について研究・調査し、その組織の持続性についても検討することが重要であると思われる。観光プロモーションにおいても体験型イベントの役割と魅力づくり(体験価値の創造)を検証し、日本の広域観光事業のモデルを作ることが重要と思われる。

研究の進め方

まずは大阪・関西万博が推進する『TEAM EXPO』に申請登録をし、大阪・関西万博と協働して活動する事を広くアピールすることとする。

もともと観光プロモーション活動は自治体予算で行われることが多く、府県をまたいだ広域観光の広報予算はほとんど存在しない。その中であって、関西には「関西広域連合」と関経連による「関西観光本部」が存在するが、コロナ禍で鉄道・バスなど交通事業者、ホテル・旅行代理店など観光事業者の業績が悪化、危機的状況にある中で、復活に向けて新たなビジョン作りが求められている。本事業では関西の広域観光の振興、活性化に資する研究とするために関西観光本部等との連携を図りながら進めていくこととする。

本研究会はイベント学会の会員だけでなく、より多くの関係者に声をかけて参画を促す

短期的目標として、中間報告となる「提言書」を作成する。関西観光本部に観光活性化のための国による財政援助等の支援が受けられるよう、関経連・関西広域連合に理解を求めるとも行う。

研究スケジュール案（一部未折衝につき取扱注意）

第0回 講師 福井昌平イベント学会副会長 関西歴史文化首都とは

第一回 講師 飯田泰之明治大学准教授 コロナ禍と観光業の現状

第二回 講師 関西観光本部より 関西観光本部の組織と現在の取組

第三回 講師 岩本渉 ユネスコ・アジア無形文化センター所長 無形文化遺産と観光